

赤ピーマンの若どり栽培技術



写真1 果実の肩部分の割れ

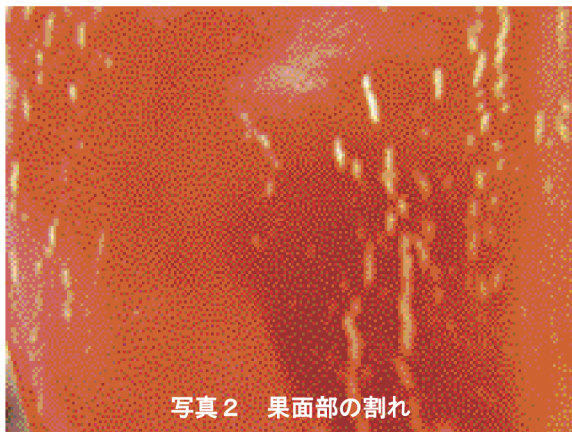
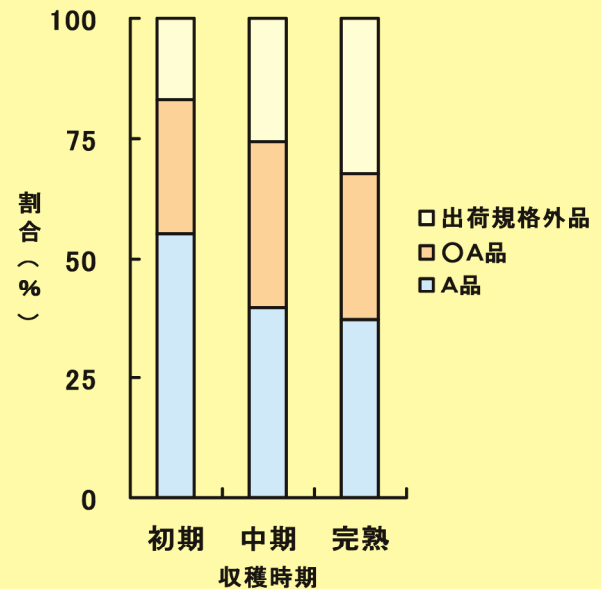


写真2 果面部の割れ



図：収穫時期とひび割れ果発生との関係

初期：赤色の着色割合が50%未満の果実を収穫

中期：赤色の着色割合が50%以上80%未満の果実を収穫

完熟：赤色の着色割合が80%以上の果実を収穫

緑色ピーマンが未熟な状態の果実を収穫するのに対し、赤色ピーマンでは、完熟させて収穫します。そのため、開花から収穫までの期間が長くなり、果面部でのひび割れ果（写真1、2）の発生による品質低下や株への着果負担の増加による樹勢低下が問題となっています。これらの問題解決には、収穫までの期間短縮が有効と考えられます。

そこで、収穫時期（初期：着色割合50%未満、中期：着色割合50%以上80%未満、完熟：着色割合80%以上）とひび割れ果発生との関連について調査しました。

その結果、初期収穫では、中期・完熟収穫の場合に比べ、ひび割れ果の発生が少なく、A品率は従来の完熟収穫に比べ、約1.5倍となりました（図）。また、初期収穫でも、2～3日間追熟することにより、果色は完熟と遜色なくなることも分かりました。

現在、収穫後の簡易な追熟方法や追熟に伴う果実内成分の変化について、品質管理担当と共同で調査しています。

（山間試験部 土居正博 0887-72-0058）